公開講座「鹿児島の美を巡る」報告

鹿児島大学教育学部美術科　下原　美保

1　はじめに

芸術に対する関心は年々高まりを見せている。鹿児島県内でも油絵や水彩画、写真等の社会人向け講座が公機関を中心に数多く開設され、いずれも活況を呈していると聞く。しかしながら、作品を「見る」ことに主眼をおいた講座は、美術館や博物館でのギャラリートーク以外、ほとんど開設されていないのが現状であろう。

そこで、本講座は「鹿児島の美を巡る」というタイトルで、鹿児島県内の美術館や博物館を巡りながら、各館の作品を鑑賞するというプログラムを準備した。

本講座では、学内でのレクチャーだけでなく、各館において直接作品を鑑賞するという方法をとった。その理由は、図版やスライドだけでは把握できない、作品のテクスチャーや、空間性などを、直に味わっていただきたいと考えたからである。また、もう一つの理由は、アートについて語り合う場－お互いの価値観を共有する、あるいは違いを理解する場－を提供したいと考えたからである。

以下は、2004 年度と 2005 年度に開催された公開講座についての報告である。

2　公開講座の準備とスケジュール

(1) 準備

本講座の特徴は、県内の美術館や博物館での作品鑑賞であり、各館の学芸員には作品解説を依頼した。そのため、対外的な交渉も含め、準備は公開講座開催の一年前から以下の手順で着手した。

1) 各館への趣旨説明及び後援依頼

2) 学芸員への講師依頼

3) 資料作成

・レクチャー用のテキストと、鑑賞用の資料（郷土出身作家や代表作、伝統工芸の技法や歴史について紹介）の２冊を準備。

・2004年度の鑑賞用資料には、個人的に美術館を訪れた際にも参考になるよう、鹿児島に関する美術の情報を網羅的に掲載した（**図1**）。

・２００５年度版は全カラーページとした。また、公開講座で訪れる館に焦点を絞り、作品に関する情報（作家や流派、コンセプト等）や代表作となる図版を掲載し、充実を図った（**図2**）。

図 1

図 2

4) 受講生募集及び受付

・県内の美術館・博物館、ギャラリー等へのチラシ配布、新聞記事による募集、公民館で開催されている講座（油絵や水彩画等）での公開講座概要説明などを行った。

5) 各館での打ち合わせ

・公開講座のカリキュラムに即して、各館での鑑賞手順やポイント、日程等を調整

(2) スケジュール

「鹿児島の美を巡る」（2004 年度開催）及び「鹿児島の美を巡るⅡ～南薩の旅～」（2005 年度開催）のスケジュールは、以下の通りである。

「鹿児島の美を巡る」

2004年10月9日(土)～10月10日(日)　　(受講生　男性4名･女性18名　計22名)

年　月　日	時　　間	事　　項	場　　所	担　当　者
10月9日(土)	9：30～	＊受付開始	教育学部音楽美術棟 ４階美術演習室	(補助学生)
	10：00～10：10	＊公開講座開始 ・自己紹介・オリエンテーション	同	鹿児島大学 下原美保
	10：10～11：10	＊レクチャー１ ・美術館の役割 ・鹿児島県内の美術館	同	同
	11：10～11：20	休憩		
	11：20～0：30	＊レクチャー２ ・作品へのアプローチ (作品の見方・芸術の役割)	同	同
	0：30～14：10	＊昼食及び鹿児島市立美術館への移動 (各自)		
	14：10～17：00	＊鹿児島市立美術館での作品鑑賞 (常設展ほか) ＊明日のスケジュール確認・解散	鹿児島市立美術館	鹿児島市立美術館 山西健夫学芸員 (下原・補助学生)
10月10日(日)	10：00～10：20	＊鹿児島大学教育学部集合 ＊バスで長島美術館へ移動	鹿児島大学 長島美術館	(下原・補助学生)
	10：20～11：20	＊長島美術館での作品鑑賞 (常設展を中心に) ＊バスで霧島アートの森へ移動	長島美術館	長島美術館 長島裕子館長 (下原・補助学生)
	13：00～13：40	＊昼食	霧島アートの森	(下原・補助学生)
	13：40～15：30	＊霧島アートの森での作品鑑賞 (常設展及びパフォーマンスの鑑賞)	霧島アートの森	霧島アートの森 宮薗広幸学芸員 (下原・補助学生)
	17：30	＊公開講座をふりかえって ＊解散	(バスの車内)	(下原・補助学生)

「鹿児島の美を巡るⅡ～南薩の旅～」

2005年10月8日(土)～10月9日(日)　　(受講生　男性3名･女性21名　計24名)

年　月　日	時　　間	事　　項	場　　所	担　当　者
10月8日(土)	8：30～	＊受付開始	教育学部音楽美術棟 ４階美術演習室	(補助学生)
	9：00～9：30	＊公開講座開始 ・自己紹介・オリエンテーション	同	鹿児島大学 下原美保
	9：30～10：40	＊レクチャー１ ・美術鑑賞について	同	同
	10：40～11：00	休憩		
	11：20～0：20	＊レクチャー２ ・訪問する美術館紹介	同	同
	0：20～14：00	＊昼食及び鹿児島県歴史資料センター 黎明館への移動（各自）		
	14：00～17：00	＊鹿児島県歴史資料センター黎明館での 作品鑑賞（常設展ほか） ＊明日のスケジュール確認 ＊解散	鹿児島県歴史資料センター黎明館	鹿児島県歴史資料センター 黎明館 山下広幸専門学芸員 (下原・補助学生)
10月9日(日)	9：00～11：00	＊鹿児島大学教育学部集合 ＊バスで指宿白水館へ移動	鹿児島大学 指宿白水館ギャラリー	指宿白水館ギャラリー
	11：00～0：00	＊指宿白水館ギャラリーでの作品鑑賞 (常設展を中心に)	指宿白水館ギャラリー	指宿白水館ギャラリー 深港恭子学芸員 (下原・補助学生)
	0：00～13：40	＊昼食（各自） ＊バスで岩崎美術館へ移動		
	14：00～15：30	＊岩崎美術館での作品鑑賞 (常設展を中心に) ＊スライドショーによる公開講座の振り返り	岩崎美術館	岩崎美術館 原田茂副館長 (下原・補助学生)
	17：30	＊バスで市内へ移動 ＊解散		(下原・補助学生)

3　講座内容

本講座は2004年度、2005年度ともに、１日目の午前中は学内におけるレクチャー、午後から２日目にかけては県内の美術館を巡りながら作品鑑賞を行った。しかし、レクチャー内容や美術館での鑑賞は同一内容でないため、年度ごとに紹介したい。

〔2004年度　「鹿児島の美を巡る」〕

(1) オリエンテーション

講師と受講生の自己紹介を行った。受講生からは、これまでの美術館巡りの体験や、絵画や写真などの制作経験、どのようなジャンルに興味があるか等を交えながらお話いただいた。

初めての顔合わせで、最初は緊張されていたが、自己紹介の後は、なごやかな雰囲気になった。

(2) レクチャー１　「美術館ってどんなところ？」

美術館における活動内容を、外部に向けての活動（展覧会、教育普及等）と内部での活動（研究、作品収集、作品保護）の両面から、講師（下原）が在籍していた福岡市博物館を例に挙げて説明する（**図３**）。

また、現在、求められている美術館像（鑑賞の場＋憩いの場－コミュニケーション、食事、音楽鑑賞、ショッピングの場等－）についても紹介する。

県内の主な美術館、博物館をスライドで概観した後、本講座で訪問する鹿児島市立美術館、長島美術館、霧島アートの森について、設立の経緯、作品のラインナップ、見所についての説明をする。

図３

(3) レクチャー２　「作品へのアプローチ」

アメリア・アレナスによる美術鑑賞の例をＶＴＲで紹介した後、作品鑑賞の方法例として、１）作品をよく観察してみよう！、２）作者は何を語りたいのか想像しよう！、３）作者や時代背景について調べてみよう！という３点から提案。

また、近年、アーティストが行うワークショップが、各地で開催されていることについても紹介したが、この場面では、受講生から「具体的にはどうすればいいのか。」「ワークショップの情報はどうやったら入手できるのか。」などの質問があった。

最後に、これからのアートの役割について紹介する。

(4) 鹿児島市立美術館での作品鑑賞

受講生に意識的に作品を鑑賞していただくため、「あなたが選ぶNo.1」を選んでいただくことにした。（結果は、最後に集計して発表）

また、各館の学芸員にも「わたしのお気に入りNo. １」を選んでいただいた。

郷土出身の作家について、下原が概要を述べ、個別作品については当館の山西健夫学芸員から解説いただいた。多くの受講生がメモをとりながら熱心に聴講され、次々に多くの質問が出された。

また、レクチャー２に基づき、マックス・エルンスト作「石化せる森」の鑑賞方法（美術史的な情報に頼らない鑑賞方法）を紹介。

常設展の後は自由鑑賞にする予定であったが、当日開催されていた特別展「新納忠之助」展も学芸員の解説を聴講したいとの要望があり、ギャラリートークを聞く（**図４**）。

最後に、明日のスケジュールを確認して解散。

図４

(5) 長島美術館での作品鑑賞

下原より印象派以降の流派やコンセプトについて解説し、個別の作家や作品にまつわるエピソードについては当館の長島裕子館長より説明していただいた。特に、ピカ

ソの作品を例示しながらキュビズムの説明をされた場面では、「ピカソのすごさがはじめてわかった。」等の感想が多く聞かれた。

また、当館は輸出用薩摩焼のコレクションで国内でも有名である。このコーナーでは、薩摩焼が出品された万国博覧会について、下原から説明を加えた。薩摩焼は、鹿児島の伝統工芸ということもあり、受講生は熱心に見学されていた。

次の見学館へ移動するため集合していただいたが、多くの受講生から「時間が足りない。」「もっと、見たい。」との声があがった。（鹿児島市内の美術館ではあるが公の交通手段がないため来館の機会が少ないとのこと）（図５）

図５

(6) 霧島アートの森での作品鑑賞

宮薗広幸学芸員より施設のガイダンスをしていただいた後、屋内外で各自昼食。その後、屋内・屋外常設展の作品解説を聞く。体験型の作品が多いため、受講生は解説を聞いた後、様々な角度から作品を眺めたり、触ったりしながら、感想を話していた（図６）。

図６

野外展示鑑賞後、パフォーマンス（「パフォーミングアート」展のグルテン）を見学したが、純粋に楽しんでいる方もいらっしゃる一方、どのように鑑賞したらよいか戸惑う方もいらした。

館内の多目的ルームで、サミ・リンターラが同館に作品（「森の観測所」）を設置した際の VTR を見る。設置に携わった宮薗学芸員より、その時のエピソードをお話いただく。

続いて、作家や作品に対して感じたことを受講生からフリーにお話していただき、２日間の活動内容を締め括った。

(7) 帰りのバスの中で

「あなたが選ぶ No.1」集計結果発表。（鹿児島市立美術館　木村探元「富嶽雲烟之図」、長島美術館　マルク・シャガール「緑のバイオリン弾き」、霧島アートの森　カサグランデ＆リンターラ「森の観測所」）発表ごとに、受講生の感想が聞こえてくる。

その後、マイクがそれぞれの座席を回り、今回の感想等についてお話しいただく。

２日間ではあったが、受講生同士も打ち解けて、笑いや拍手がわき起こる。

〔2005 年度　「鹿児島の美を巡る II ～南薩の旅」〕

(1) オリエンテーション

講師と受講生の自己紹介を行う。受講生の約４割がリピーターであるため、最初から和やかな雰囲気であった。

(2) レクチャー１　「美術鑑賞について」

2004 年度同様、レクチャー用と鑑賞用の参考資料の２冊を準備。

より深い美術鑑賞のために、１）観察力を高める、２）幅広いジャンルの良質な作品をたくさん見る、３）幅広く情報収集を行うことを提案（2004 年度のレクチャーより具体的な事例で説明）。３）については、レクチャー用のテキストに、情報収集のための美術雑誌、参考文献、TV 番組等を掲載。

また、休憩時間には美術鑑賞の入門書などを廊下や教室の前に展示したが、何人かの受講生がメモされていた。

(3) レクチャー２　「訪問する美術館について」

本講座で訪問する鹿児島県歴史資料センター黎明館、指宿白水館ギャラリー、岩崎美術館について、設立の経緯、作品のラインナップ、見所についての説明。

(4) 鹿児島県歴史資料センター黎明館での作品鑑賞

山下廣幸専門学芸員より、当館設立の経緯、資料の収集方針、代表的な美術作品について、講座室にて解説いただく。

図７

次に、特別展「はるかなり江戸・鹿児島の旅」のギャラリートークを他の来館者とともに聞く。(自由参加)

再び集合し、常設展の主な作品を山下氏に解説していただく。特に、「刀剣の見方」についての解説は、ほとんどの受講生が初めて聞く内容で、熱心に聴講されており、質問も多かった（図７）。

明日のスケジュール確認の後、解散。

(5) 指宿白水館での作品鑑賞

深港恭子学芸員に、館内の施設案内をしていただいた後、「ギャラリー白水」(薩摩の絵師による絵画等)、「ギャラリー三彩」（中国陶磁器)、「ギャラリー薩摩」（輸出用薩摩焼）において、解説していただく。県内で中国陶磁器を所蔵している館はほとんどないため、質問が多かった。

また、輸出用薩摩焼については、本薩摩、京薩摩、横浜薩摩の見分け方など、専門性の高い解説をお願いした。受講生からも、「今まではなんとなく薩摩焼をながめていたけど、見方がわかると急に興味がわいてきた。」などの感想が聞かれた（図８）。

当館は、本来宿泊施設であり、館内にギャラリーがあること自体、ほとんど知られていなかった。昼食中も深港学芸員にご一緒いただいたが、受講生から「また、見学に来ていいですか。」「宿泊しなくても見学できますか。」などの質問が出ていた。

図８

(6) 岩崎美術館での作品鑑賞

原田茂副館長に、常設展示の解説をしていただく。特に、当館所蔵の代表作アンリ・マティス作「ラ・ポエジー」については、以前の所蔵者や展示する際のエピソードを織り交ぜて解説していただいた。図録や解説書等では知り得ない内容であるため、受講生の反応も良かった。

あまり作品としては認識されにくいが、当館の各所にチャールズ･レニー･マッキントッシュ（ハイバックチェア）や、ル・コルビジェのデザインしたレプリカの椅子が設置されており、実際、座ることも可能である。これらについては、下原から説明を加えた。数名の受講生が座り心地を試していた。

図９

最後の 20 分は、当館の一室を借用し、公開講座２日間の様子（補助学生が初日からスナップショットを撮影）を、スライドショーで振り返った。自分たちの姿をスクリーンに見つけた受講生たちから歓声があがった。

(7) 帰りのバスの中で

「あなたが選ぶ No.1」集計結果発表。(鹿児島県歴史資料センター黎明館　太刀「国宗」, 白水館ギャラリー　錦手釦〔薩摩焼〕, 岩崎美術館　アンリ･マティス「ラ･ポエジー」)前年同様、発表ごとに、受講生の感想が聞こえてくる。

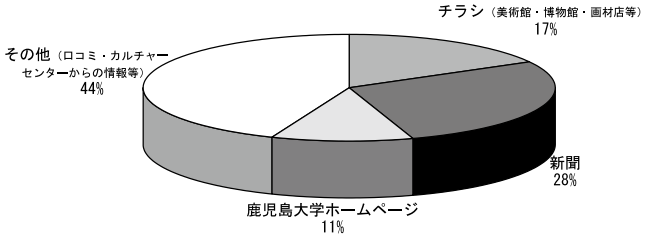
今回は、スライドショーで２日間の活動を振り返ったため、感想を述べていただくことはしなかった。しかしながら、「アートについて語り合う場」の提供こそ本来意図していたことなので、自らの言葉で感想を述べ合う場面が必要であったと思われる。

4　アンケート

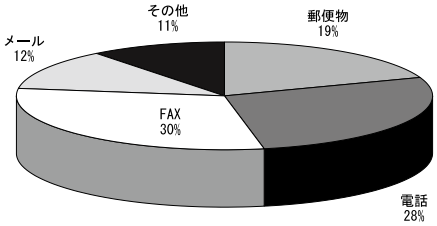
2004 年度 , 2005 年度ともに、同一内容のアンケートを

行った。以下は２年分のデータを綜合した結果である。

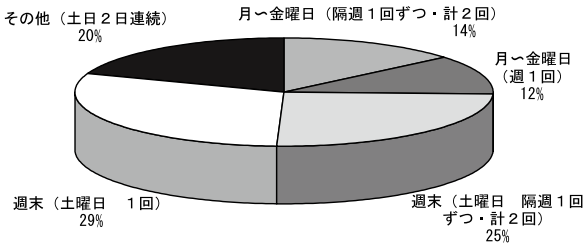
(1) この講座は何でお知りになりましたか。



(2) どのような申し込み方法が便利だと思いますか。

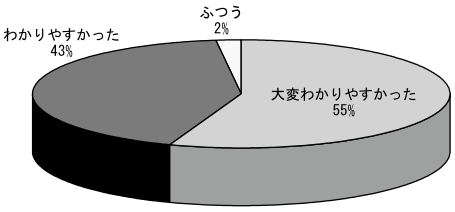


(3) 日程の組み方はどのような形が便利ですか。

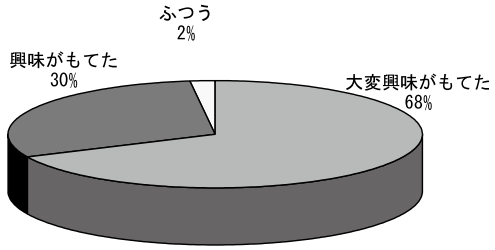


(4) 公開講座の内容はいかがでしたか。

〔わかりやすさ〕



〔興味〕



(5) 今後、「鹿児島の美を巡る」をシリーズ化していこうと思います。

どのような内容の講座を希望されますか。

１）行きたい美術館
〔県内〕 ・ 松下美術館、三宅美術館、陽山美術館、児玉美術館ほか 〔県外〕 ・ 九州国立博物館・大原美術館・熊本現代美術館ほか 〔海外〕 クレラー・ミュラー美術館、オルセー美術館、オランジェリー美術館ほか
２）やりたい事（工作・トークショー・お茶会等々）
・ 場所、作品等を少なくして、一つ一つの作品についての説明を時間をかけて聞きたいです。 ・ トークショー ・ サークル等を組織化しての国内外美術館ツアー ・ お茶会 ・ スライドでベラスケスやゴッホの絵を見せていただきましたが、もっと見たいと思います。 ・ 工作 ・ 鑑賞＋体験（本土＋奄美で大島紬の勉強とドロ染め体験とか、美術館のワークショップに参加とか） ・ 作家による作品説明会 ・ ワークショップに参加したい。参加型のイベントにも参加したい。 ・ 講座の最後にでも参加者の方々の好きな作品、作者について聞いてみたいです。（今後の美術鑑賞の参考にさせていただきたい。）

(6) 美術について、どういうことを知りたいですか。

・ 作品にまつわるエピソード的なこと ・ 作品の見方 ・ 歴史とのつながり ・ 美術の歴史について学びたいと思います ・ その絵の時代背景、作者のおかれた立場など、「考える材料」を知りたいです。 ・ 作品について考えることが自分を理解する鍵のような気がするので今回は非常に大きいヒントをいただきました ・ つくり手の気持ち ・ 絵画の楽しみ方 ・ 郷土の作家（近代） ・ 現代芸術家の作品と解説（ウォーホールやクリストなど）

5　終わりに

公開講座「鹿児島の美を巡る」(2004 年度・2005 年度)の概要は以上の通りである。

アンケート１の結果からもわかるように、本講座を受講されたきっかけは、油絵などのカルチャーセンター、友人からの口コミなど、もともと美術に興味のある方が多かった。そのため、受講生は非常に熱心で、講座の間はひっきりなしに意見や質問が飛び交った。受講生のほとんどは女性であったが、年齢層は幅広く、20 代から 70 代までの方

が参加されていた。友達同士やご夫婦で参加された方も多く、作品を鑑賞しながら、お互いに感想や意見を交わし、終始なごやかな雰囲気であった。また、二日間の美術館巡りの中で、美術に興味をもつという共通点から、新たな人間関係も形成されていたようである。ただし、アンケート４にも「参加者の方々の好きな作品、作者について聞いてみたい。」との意見も寄せられ、親しい者同志だけでなく、自ら語り、他の参加者の意見を聞くための時間と場所を設定する必要性を感じた。

また、レクチャーについては、専門的な知識がなくても理解できるよう、わかりやすく説明することを心掛け、学芸員の方にもそのように依頼した。アンケートの結果からも内容については、比較的ご理解いただけたと思われる。しかし、上記の通り、受講生のほとんどの方は、もともと美術に興味があり、県内の美術館や博物館にも少なからず足を運ばれていた。アンケート５の「どのような内容の講座を希望されますか。」との問いに、「場所、作品を少なくして、一つ一つの作品についての説明を、時間をかけて聞きたいです。」という意見や、アンケート６の「美術についてどういうことを知りたいですか。」の問いに、「作品にまつわるエピソード」、「作品の見方」あるいは「その絵の時代背景、作者のおかれた立場など、〔考える材料〕を知りたいです」などの意見が寄せられていることを考慮すると、今後は、「広く浅く知る」というより、「深く、じっくり、考えながら」鑑賞する講座が求められているように推測される。

さらに、多くの方から県外の美術館での作品鑑賞を望む声が多く聞かれた。確かに、鹿児島における伝統工芸や美術作品の特徴は、他と比較しないとわかりにくい。近隣の県ならば日帰りも可能であるので、今後は足を伸ばしてみたい。

講座内容についても多くのご意見をいただいた。アンケート５では、トークショーやお茶会など体験型の講座が求められていた。一方的なレクチャーというより、自ら積極的に参加する活動が期待されていると考えられる。このような体験も、今後の講座に取り入れていきたい。

最後に、本講座は各館の学芸員の方のご協力がなければ成立しなかった。実際の作品を前に、その作品を熟知した学芸員から直接話を聞くことができる点が、大学のレクチャーやTV番組とは大きく異なる点である。また、学芸員ならではの作品に関するエピソードは、受講生の好奇心を満たして下さったと思われる。館の業務に携わりながら、惜しみなくご協力いただいた学芸員の方々には本当に感謝している。

また、両年度の講座では、テキスト作りから当日の受付、駐車場整理、タイムキーパー、記録係、受講生の移動の補助（高齢者の方もいらしたので荷物運び等）まで、ゼミ生に関わってもらった。２回ともボランティアであったが、美術教員やミュージアムエデュケーターを目指す彼らにとって、一般市民の方々が、美術をどう理解されているのか、どのようなアプローチが必要なのかを知る、大変良い機会になったのではないだろうか。さらに、受講生の探求心の旺盛さに、多くの学生が刺激を受けていた。彼らにとっても、大学のレクチャーだけでは得られない貴重な体験ができたと思う。